

六小・富士便り

開校55周年 国立市立国立第六小学校
校長室便りNo.11 令和7年(2025年)11月14日

校歌制定20周年 音楽会に向けて

早いもので令和7年も11月となり、残すところ2ヶ月を切りました。自分の年齢もあると思いますが、時の経つ速さは、年々早くなっているように感じます。

さて、運動会に引き続いて、今年度の大きな学校行事である音楽会を12月5日(金)・6日(土)に実施いたします。私にとって音楽会は、学校行事として行うのは、実は六小が初めてです。

これまでのところでは、学芸会や学習発表会等で、楽器の演奏や合唱などは、演技する内容の中に組み込んで行われてきましたので、音楽会として実施できるのは、自分も音楽が好きなだけに余計に嬉しい思いです。

更には、校歌制定20周年という記念の年にも当たっていることは、時にも恵まれているように思います。作詞・作曲の杉本 竜一先生にもお知らせをして、本校校歌を大切にして歌い続けてお伝えしたいと思っています。

また、音楽会ということと、校歌制定20周年を記念して、音楽に関する子供たちの体験的な取組を考え、六小・富士便り No.1 でお知らせしました「笑顔寄席」で、一流の音楽を聞かせようと準備しておりました。残念ながら、「笑顔寄席」というプログラム自体が選択できなくなり、別の内容にせざるを得なくなりました。誠に残念ですが、ご了承いただければと思います。

それでも、何とか子供たちや保護者の方に記念の音楽会を記憶にとどめていただきたいと思い、笑顔寄席に出演する予定でした、一人の歌い手の方にメッセージ動画をお願いしたところ、ご了解をいただきました。お名前は、当日のまでのお楽しみにさせていただきたいと思います。

きっと、子供たちよりも保護者の皆様の方が良くご存知ではないかと思います。

【保護者の皆様にお願いです。】

このメッセージ動画については、保護者の皆様にお願いをしなくてはなりません。

今回の対応については、その歌い手の方と私個人との信頼関係で成り立っていることもあり、【当日のメッセージの動画撮影や写真撮影は、厳禁】とさせていただきます。その方のこれから歌い手としての仕事に影響が出ることとなりますので、何卒、ご了承いただきますようお願いいたします。勝手を申しますが、ご理解の程、お願ひいたします。

インフルエンザが流行っています！

本校の2年生で学年閉鎖、6年生で学級閉鎖に続き、3年生が学年閉鎖と5年生の学級閉鎖と、インフルエンザがとても流行っています。他の学校においても、同じように学年閉鎖や学級閉鎖があり、六小でも何とか乗り越えていきたいと思っているところです。既に、すぐーる配信で感染症対策のお願いをしているところですが、大人も子どもも十分に気を付けて、2学期の最後を元気に迎えたいと思います。特に12月には、音楽会がありますので、換気や手洗い、マスク等で予防に心掛けるとともに、睡眠や食事に気を付けて、元気に音楽会当日を迎え、大成功で終えたいところ



です。子どもたちも、教職員も、保護者の皆様も、地域の皆様も一緒に気を付けてまいりましょう！！

声の響きと言葉を大切にして

これまで合唱を通して声を磨いてきたことで、とても多くのメリットがありました。

例えば、授業や学習活動の時、普通に話しても声が響くので、大きな声を出さなくても教室の後ろの右端や左端に座っている子どもたちに十分に声が届きました。また、伝えたいことや気付いてほしいこと等がある時には、声を強めにしたり、逆に小さめにしたりするなどの言葉の発声の仕方を工夫することで、子どもたちに分かるように話すことができました。

また、国語の授業では、リズムを感じて音読をしてほしいと思い、授業の初めの時間を使って、手や足、身体を使ったリズム打ちを入れてから音読の学習をしました。また、言葉の発声練習を取り入れたりして声を響くようにしたことで、どの子どもたちも声が出るようになり、授業の時に声が大きくなても聞こえる声になった子どもたちもたくさんいました。



今、六小の学習活動や授業の様子、登校時の様子から思うことは、声があまり出ないなあということを感じています。実は、声は、毎日意識して出さないと響きません。学校の教育活動において、声ということを意識するのは、音楽や国語の時間の他は、なかなか難しいかもしれません。

この六小で、朝の挨拶や学習活動、授業時に、子どもたちの声が適切に響くようになると、学校中に言葉を大切にする子供が増えていくように思います。なぜなら、言葉が響くようになると、チクチク言葉もふわふわ言葉もよく聞こえるようになります。言葉のもつ力を実感しない訳にはいかなくなります。言葉を大切にする重要性が分かることで、チクチク言葉でなく、ふわふわ言葉を使うことの意味が分かっていくことになります。やはり、実感の伴う体験や経験には、とても大きな力があると思います。

このふれあい月間である11月に、声の響きや言葉に意識してほしいと思うところです。また、12月にある音乐会の機会を通して、子どもたちも、教職員も、保護者や地域の皆様にも、少しだけ声の響きを意識していただき、声と言葉のもつ力を実感してほしいと思う今日この頃です。

【校長のつぶやき】

直近のPTA便りには、校長の私へのインタビューという形で記事が掲載されています。PTAの皆様、大変にありがとうございます。

これまでの学校では、校長室便りを出すことで、私の人となりを知っていただくことが多かったところですが、このように取り上げていただけると、皆さんの知りたいことに対して応える形となって、より分かりやすくなるように思いました。

なかなか全ての保護者や地域の方と対面したり、お話をしたりすることはできませんので、できる限り発信をして、学校の責任者である校長の私を知っていただくことで、学校運営や教育活動の目指すところを理解していただくことにつながるように思っています。これからも、この校長室便りを発信してまいりますので、お時間のあるところで一読いただけましたら、有難いところです。

それでは、今回の最後は、自身の今の座右の銘をお知らせして終わりにします。

「おうばいどうり 桜梅桃李」・・・ 桜は桜、梅は梅、桃は桃、李は李らしく、それぞれの良さを活かして咲き香ることから、自分の良さを大切にして、それぞれが生き抜くことを表しています。